

なかつか 亮



2013年9月29日(日)

NO410

区議控室 Tel 5742-6818

事務所 大井3-19-7-101

Tel 3773-3231

品川区議会第3回定例会開会

入所待ち 595人



特養ホームさらなる増設を

品川区議会第3回定例会が19日より開会。共産党は区民の暮らしを応援する品川区をめざし、特養ホームや認可保育園の増設などを提案。住民から強い反対の声が挙がっている29号線など道路計画や再開発事業の中止を求めました。順次、議会の様子をご報告します。まずは「特養ホームの増設を」です。

区民運動が力に

品川区は2000年の特養ホーム「ロイヤルサニー」の開設を最後に、特養増設を中止し有料老人ホーム建設へ。これを機に「利用料が高額な施設ではなく、国民年金でも入所できる特養ホームの増設を」との区民運動が始まり、署名活動へ。粘り強い取り組みが力となり、08年に増設計画を復活させました。

増設を求めてきました。
増設は229人分

しかし今年2月、特養申込者634人に対し、入所は67名。希望者1割と狭き門です。

今年8月の特養申込数は595人。これから増える3ヶ所の特養ホーム定員増は229人ですので、現在待っている方の半分以上。高齢者人口増を見通せば、さらに足りません。

今から増設計画を

共産党は「足りないのは明らか。売却予定の国有地は区内に2万㎡もある。今からさらなる特養の増設計画を」

と主張しました。

品川区は「これから3施設増える。需要を見ながら、総合的に判断する」と答弁。具体的な計画を示すことはありませんでした。

計画を定め、用地を取得しても開設までは数年かかります。やっぱり今から増設計画の具体化が必要。なかつか亮



補助29号線 やっぱり被害想定が“

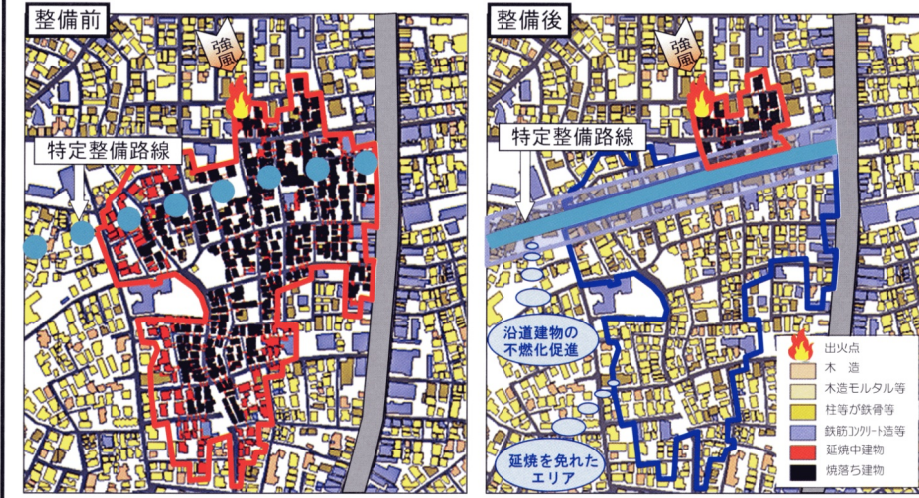
不自然”

ンを示しました。

(説明会 都資料より抜粋)

特定整備路線の整備による延焼遮断効果

<火災発生から6時間後の延焼状況>



震災後の延焼シュミレーション 被害想定的前提

- ①消防署、消防団・区民による消火活動ナシ
- ②風向きは道路に対して直角(冬の6時/風速8m)
- ③火災による火の粉想定ナシ、道路上の車両想定ナシ

東京都第二建設事務所窓口にて聞き取り調査より



9月19日(木)の芳水小学校「用地測量説明会」の様子。

東京都が震災時の「延焼遮断帯」と説明する29号線道路について、防災の根拠と説明するシュミレーションの一部がわかりました。9月19日芳水小学校で開催された「用地取得説明会」にて、参加者から「29号線が火災の延焼を止めると説明するが、根拠となるシュミレーションを公開してほしい」の要望をうけ、都は「資料配布できないが、閲覧は拒まない」とプロジェクトの映像で説明。はじめて延焼シュミレーション

をしてみました。翌日、説明会の主催者である東京都第二建設事務所(品川区役所本庁舎8階)の窓口で、改めて説明を受けると、上記のような「不自然な想定が判明。「消防署による消火活動、消防団・区民による街頭消火器、スタンドパイプ、可搬ポンプによる消火活動の想定なし」「風は道路に向かって吹く」「火災による火の粉が飛ぶ想定なし」「道路上に車はない」などが想定的前提です。

結論ありき??

まるで29号線が必要という結論を出すための被害想定。これで防災対策とは納得できません。今後も追求していきます。なかつか亮

次回の『気軽な町の無料法律相談会』のお知らせ

10月18日(金) 午後6時～8時 場所: 日本共産党なかつか亮事務所
弁護士と一緒に相談会を行います。生活のこと法律のこと、お気軽にご相談ください
連絡先 昼: 区議控室 5742-6818 夜: 事務所 3773-3231